

令和 5 年 度 事 業 報 告

(自 令和 5 年 4 月 1 日～至 令和 6 年 3 月 31 日)

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘 要 |
|------------|----------------|------|---|
| 令 5. 6. 5 | 理事会 (第 1 回) | 学士会館 | <p>令和 5 年度第 1 回理事会を開催。</p> <p>出席者 理事総数 14 名中、出席理事 13 名（日高邦彦氏、坪井 裕氏、横山明彦氏、川上景一氏、衣川裕司氏、寒川哲臣氏、高本 学氏、富岡義博氏、平栗健二氏、古澤 宏氏、松井利行氏、丸山 茂氏、村上和夫氏）</p> <p>欠席理事 1 名（加藤 修氏）</p> <p>出席監事 2 名（仲田一元氏、八島恵子氏）</p> <p>理事会議長として、横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和 4 年度第 4 回理事会（令和 5 年 3 月 6 日開催）の議事録を確認した。</p> <p>[議事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議事項 1 令和 4 年度事業報告（案）承認の件 令和 4 年度事業報告（案）を承認。 ・ 審議事項 2 令和 4 年度計算書類等（案）承認の件 令和 4 年度計算書類等（案）を承認。 ・ 審議事項 3 評議員・理事の辞任に伴う新評議員・新理事推薦の件 令和 5 年度 6 月期の役員等の選出にあたって、現役員等が所属する組織での人事異動等に伴い、評議員 6 名、及び、理事 2 名の辞任・交代の申し出があったことが報告され、新評議員候補者、及び新理事候補者の情報が示された。審議の結果、新評議員候補者全員、及び新理事候補者全員の推薦が了承された。 ・ 審議事項 4 定時評議員会の招集の件 以下の定時評議員会招集を承認。 <ul style="list-style-type: none"> (1) 日時：令和 5 年 6 月 26 日(月) 14:30～15:30 (2) 場所：学士会館 320 号室（東京都千代田区神田錦町 3-28） (3) 目的である事項等 <ul style="list-style-type: none"> i) 令和 4 年度事業報告承認の件 ii) 令和 4 年度計算書類等承認の件 iii) 評議員・理事の辞任に伴う新評議員・新理事選任の件 |
| 令 5. 6. 26 | 評議員会 | 学士会館 | <p>令和 5 年度定時評議員会（令和 4 年度決算書類の承認）を開催。</p> <p>出席者：評議員 19 名中、出席評議員 14 名（石田 明氏、井出育夫氏、上間功也氏、太田光昭氏、荻田恭之氏、佐々木昭悟氏、佐藤 晃氏、篠原郁二氏、寺西裕之氏、福山満由美氏、向井 稔氏、横山清志氏、吉岡靖浩氏、吉田 隆氏）</p> <p>他に、当法人監事・仲田一元氏が監査報告人、代表理事（会長）・日高邦彦氏、代表理事（理事長）・横山明彦氏がオブザーバーとして出席。</p> <p>欠席評議員 5 名（大淵一央氏、沖谷 彰氏、松尾智弘氏、松本袈裟文氏、三戸雅隆氏）</p> <p>議長に上間功也氏氏を選出する。本評議員会の議決は定足数（評議員の過半数）を満たしていることを確認した後、議事録署名人に寺西裕之氏、横山清志氏を指名した。</p> |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘 要 |
|-----|-----|------|--|
| | | | <p>議事に先立ち、令和4年度臨時評議員会議事録（令和5年3月6日開催）を確認した。</p> <p>[議事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議事項1 令和4年度事業報告承認の件 専務理事から、令和4年度事業報告のポイント（第70回電気科学技術奨励賞の選定並びに贈呈式、第60回電気科学技術講演会、創設70周年事業）についてそれぞれ説明。その他の活動として、電気科学技術奨励賞分類部会を開催したほか、媒体の特長（Webサイトの迅速性、印刷媒体の品質・閲覧性）を活かした情報発信に努めたこと、さらに、賛助会員、寄附者への働きかけによって賛助会費と寄附の維持に努めたことを報告した。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項2 令和4年度計算書類等承認の件 専務理事から、令和4年度計算書類等を詳細に説明。仲田監事から監査報告及び所感を得る。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項3 評議員・理事の辞任に伴う新評議員・新理事選任の件 専務理事から、当法人の役員等候補者については、令和4年度第1回理事会（令和4年6月7日開催）及び第3回理事会（令和4年9月27日開催）での議論を踏まえ、令和4年度臨時評議員会（令和5年3月6日開催）での審議・決議の結果、役員等候補者選出委員会（令和元年から令和4年まで開催）を廃止し、以下の手続きで選出することになった旨を説明。 ・定款第13条、第26条及び第30条の規程（評議員、及び理事・監事の選任・解任についての規定）に基づき手続きを行う。 ・役員等候補者選出委員会規程に代わって、新たに、役員等候補者の選出手続きを定める。 <p>令和5年度6月期の役員等の選出にあたって、現役員等が所属する組織での人事異動等に伴い、評議員5名、理事2名の交代、及び評議員1名の退任の申し出があったことが報告され、新評議員候補者、及び新理事候補者、及び退任評議員の情報が示された。</p> <p>それぞれの候補者について審議を行った結果、新評議員候補者全員、及び新理事候補者全員の選任が承認された。</p> <p>選任が承認された新評議員候補、新理事候補（及び退任評議員）は以下のとおりである。</p> <p>[新評議員]（五十音順） 篠田幸男氏（東京電力ホールディングス株式会社） 島田尚依氏（パナソニックホールディングス株式会社） 蝶野正浩氏（東京地下鉄株式会社） 服部正典氏（株式会社 東芝） 藤井勝紀氏（東海旅客鉄道株式会社）</p> <p>[新理事]（五十音順） 齋藤祐樹氏（東日本旅客鉄道株式会社） 平井淳生氏（一般社団法人 電子情報技術産業協会）</p> <p>[退任評議員] 三戸雅隆氏（株式会社 フジクラ）</p> |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘要 |
|------------|--------------------------|---------|--|
| | | | <p>[報告事項]</p> <p>i) 第 61 回電気科学技術講演会の開催について</p> <p>専務理事から、第 61 回電気科学技術講演会を、当法人と東京大学大学院工学系研究科 電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究 アライアンス (APET) との共催により、8 月 1 日 (火) に実施することになった旨を報告。</p> <p>決定事項を以下に記す。</p> <p>[第 61 回電気科学技術講演会]</p> <p>日時：令和 5 年 8 月 1 日 (火) 14:30~17:00</p> <p>会場：オンライン開催</p> <p>テーマ：蓄電技術の最新動向</p> <p>講演者：武尾 伸隆 氏 (経済産業省)</p> <p>田代 洋一郎 氏 (東京電力ホールディングス株式会社)</p> <p>小林 弘典 氏 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所)</p> |
| 令 5. 7. 6 | 分類部会 | 学士会館 | <p>第 71 回電気科学技術奨励賞応募作分類部会を開催。</p> <p>出席者：分類部会委員 4 名全員 (上間功也氏、栗田智久氏、平栗健二氏、松木隆典氏) が出席。</p> <p>他に、代表理事 (会長) ・日高邦彦氏、代表理事 (理事長) ・横山明彦氏がオブザーバーとして出席。</p> <p>議事：第 71 回電気科学技術奨励賞応募作の分類分けについて</p> <p>上間功也氏が座長席につき、第 71 回 (令和 5 年度) 電気科学技術奨励賞の応募作 (受賞候補) 46 件 (125 名) の審査 5 分野 (電力・エネルギー関係、産業・交通関係、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係、情報・通信関係、教育関係) への分類分けについて審議した。</p> <p>受賞候補による希望分野、及び応募作の内容に基づき、応募作の審査分野を、それぞれ、電力・エネルギー関係 12 件、産業・交通関係 12 件、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係 8 件、情報・通信関係 12 件、教育関係 2 件とすることで委員の意見が一致し、7 月 11 日に開催される第 1 回審査委員会に提案することになった。</p> |
| 令 5. 7. 11 | 顕彰 (第 71 回奨励賞第 1 回審査委員会) | 学士会館 | <p>第 71 回電気科学技術奨励賞第 1 回審査委員会を開催。</p> <p>出席者：日高邦彦審査委員長、横山明彦審査副委員長、及び、審査委員 20 名中、出席委員 16 名 (代理出席含む)。</p> <p>欠席委員 4 名。</p> <p>7 月 6 日開催の分類部会による提案のとおり、応募作 46 件の審査分野を、電力・エネルギー関係 12 件、産業・交通関係 12 件、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係 8 件、情報・通信関係 12 件、教育関係 2 件とすることが承認され、速やかに審査を開始することを決定した。</p> <p>審査委員 20 名 (委員長、副委員長を除く) を 5 分野に分け、各委員は、それぞれ担当分野の書類審査 (基礎審査) を行い、審査結果 (基礎審査表) を 8 月 31 日までに事務局に提出することになった。</p> |
| 令 5. 8. 1 | 講演会 | オンライン形式 | <p>「第 61 回電気科学技術講演会」を開催。</p> <p>「蓄電技術の最新動向」をテーマとし、オンライン形式で実施した。</p> |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘要 |
|-----------|-------------------------|------|--|
| | | | <p>[主催] 公益財団法人 電気科学技術奨励会／東京大学大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究 アライアンス (APET) (2団体共催)</p> <p>[後援] 一般社団法人 電気学会、株式会社 オーム社</p> <p>[講演内容]</p> <p>○講演1「蓄電池産業の現状と今後の方向性」 眞柳 秀人 氏 (経済産業省 商務情報政策局 情報産業課 電池産業室長)</p> <p>○講演2「電力供給における蓄電技術の役割」 田代 洋一郎 氏 (東京電力ホールディングス株式会社 エリアエネルギーイノベーション事業室 スペシャリスト (蓄電池システム活用))</p> <p>○講演3「各種移動体用電池の動向と今後の展望」 小林 弘典 氏 (国立研究開発法人 産業技術総合研究所 エネルギー・環境領域 電池技術研究部門 総括研究主幹)</p> <p>講演では、3名の講演者が、それぞれの専門の立場から、蓄電技術 (電力貯蔵技術) の開発・実用化の最新動向について、実例を交えながら紹介した。</p> <p>経済産業省の眞柳秀人氏の講演では、2050年のカーボンニュートラルの達成に向けた我が国の蓄電池産業戦略について、基本的な考え方と方向性を詳しく解説して頂いた。また、海外諸国による蓄電池政策も紹介して頂き、蓄電池に関して、世界の中で我が国が置かれている状況や競争力等についても解説して頂いた。</p> <p>東京電力ホールディングス株式会社の田代洋一郎氏の講演では、蓄電池を含めた蓄電技術 (電力貯蔵技術) 全般について、実例を交えながら詳しく解説して頂いた。蓄電池では、現在主流のリチウムイオン電池のほか、NAS電池等についても現状を紹介して頂いた。また、蓄電池以外の蓄電技術として、フライホイール、電気二重層キャパシタ、揚水発電、重力蓄電、CAES (圧縮空気エネルギー貯蔵システム) 等についても触れて頂いた。</p> <p>国立研究開発法人 産業技術総合研究所の小林弘典氏の講演では、電気自動車 (EV) をはじめとする移動体 (船舶、航空機等を含む) における蓄電池開発の現状について解説して頂いた。現在主流のリチウムイオン電池を中心に、実例を交えながら詳しく紹介して頂くとともに、次世代蓄電池 (ポストリチウムイオン電池) についても研究開発の現状を紹介して頂いた。特に、全固体電池は、EV普及の鍵の1つと考えられ、次世代蓄電池の最有力候補として詳しく解説して頂いた。</p> <p>本講演会の参加者は575名で、各講演では、質疑も活発に行われ、蓄電技術に対する関心の高さを伺い知ることができた。</p> |
| 令 5. 9. 8 | 顕彰 (第71回奨励賞第2回審査委員会) | 学士会館 | <p>第71回電気科学技術奨励賞第2回審査委員会を開催。 出席者：日高邦彦審査委員長、横山明彦審査副委員長、及び、審査委員20名中、出席委員17名 (代理出席含む)。 欠席委員3名。</p> <p>[第一次審査 (基礎審査)]</p> <p>出席委員 (委員長、副委員長を除く) が、審査5分野 (電力・エネルギー関係、産業・交通関係、家電・民生機器及びエレクトロニクス関係、情報・通信関係、教育関係) に分かれて第一次審査 (基礎審査) を行った。各分野</p> |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘 要 |
|-------------|----------------|------|--|
| | | | <p>での議論の結果、電気科学技術奨励賞候補として、第二次審査に合計 23 件の受賞候補を推薦することになった。</p> <p>[第二次審査（総合審査）]</p> <p>第一次審査終了後、全審査委員による第二次審査（総合審査）に移った。議論の結果、23 件（62 名）の受賞を決定した。</p> <p>続いて、受賞作の中で最も高い評価を受けた 1 件を文部科学大臣賞に決定し、それに次ぐ評価を受けた 1 件を電気科学技術奨励会会長賞に決定した。</p> <p>決定にあたっては、まず、班内で 1 位を付けた委員の数が最多の候補を文部科学大臣賞に決定した。</p> <p>次に、電気科学奨励会会長賞の選考に移り、文部科学大臣賞に次いで評価の高い 4 つの候補について、出席委員全員による決選投票を行った。決選投票は 2 回行い、最終的に過半数の得票を得た候補を電気科学技術奨励会会長賞に決定した。</p> <p>文部科学大臣賞には、富士通株式会社による応募作が選ばれ、電気科学技術奨励会会長賞には、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、九州大学大学院の共同提出による応募作が選出された。</p> <p>最後に、事務局より、贈呈式を 11 月 30 日に東京神田・学士会館において実施する予定である旨が述べられたが、5 類に移行したとはいえ、コロナ禍が終息したわけではないので、9 月 28 日開催の理事会で、贈呈式の開催形式、開催規模を決めること、詳細が決まり次第、審査委員にお知らせする旨が告げられた。</p> |
| 令和 5. 9. 28 | 理事会 (第 2 回) | 学士会館 | <p>令和 5 年度第 2 回（臨時）理事会を開催。</p> <p>出席者：理事総数 14 名中、出席理事 12 名（日高邦彦氏、坪井 裕氏、横山明彦氏、衣川裕司氏、寒川哲臣氏、高本 学氏、富岡義博氏、平井淳生氏、平栗健二氏、松井利行氏、丸山 茂氏、村上和夫氏） 欠席理事 2 名（齋藤祐樹氏、古澤 宏氏） 出席監事 1 名（八島恵子氏）</p> <p>理事会議長として横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和 5 年度第 1 回理事会（令和 5 年 6 月 5 日開催）の議事録を確認した。</p> <p>[議事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議事項 1 第 71 回電気科学技術奨励賞受賞者決定の承認の件 令和 5 年度の第 71 回電気科学技術奨励賞の受賞者を、去る 9 月 8 日の同賞審査委員会で決定し、本理事会において諮ったところ、全員一致で承認した。 ・審議事項 2 第 71 回電気科学技術奨励賞贈呈式の開催形式の件 専務理事から、第 71 回電気科学技術奨励賞の贈呈式は、来たる 11 月 30 日 16 時 00 分より学士会館で開催の予定だが、5 類に移行したとはいえ、コロナ禍が完全に終息したわけではなく、今年も新型コロナウイルス感染症の影響を考慮する必要があることが述べられた。そこで、本理事会にて、同賞贈呈式の開催形式、開催規模等を議論して頂きたい旨が述べられた。 <p>議論の結果、第 71 回電気科学技術奨励賞の贈呈式は、以下の開催形式、開催規模で開催することが決定、承認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○対面開催とする。 ○受賞者に加えて、受賞者のご家族と来賓を招待する。 |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘 要 |
|-------------|--------------------------|------|---|
| | | | <p>○ただし、過密にならないよう、受賞者の同伴者の人数と、来賓の人数を制限する。</p> <p>○受賞者に、電気科学技術奨励賞、文部科学大臣賞、電気科学技術奨励会会長賞を授与する。</p> <p>○受賞者は1件ずつ壇上に登壇して頂き、賞状と副賞の贈呈、さらには、記念撮影を行う。</p> <p>○文部科学大臣賞については、文部科学省の方に会場にお越し頂き、受賞者に直接、賞状の授与を行うことをお願いする。</p> <p>○4省庁（文部科学省研究振興局長、総務省国際戦略局長、国土交通省大臣官房技術総括審議官、経済産業省資源エネルギー庁長官）より来賓を招待し、祝辞を賜うことをお願いする。</p> <p>○文部科学大臣賞受賞者に、受賞作の内容のプレゼンをして頂く。</p> <p>○贈呈式終了後に別室で祝賀パーティーを行う。</p> <p>[業務報告]</p> <p>i) 第61回電気科学技術講演会の報告 専務理事から、第61回電気科学技術講演会を8月1日、オンライン形式で開催したことを報告。テーマを「蓄電技術の最新動向」とし、蓄電池以外の手段も含めて、蓄電技術（電力貯蔵技術）の開発・実用化の最新動向に焦点を当て、3人の講演者に解説をして頂いたこと、及び、インターネットを通じて575名の参加者があり、各講演では質疑も活発に行われたことが報告された。</p> <p>ii) 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告 定款第27条、及び法人法90条、197条により、職務の執行状況の報告が義務付けられていることに鑑み、令和5年3月～8月の執行状況について報告。併せて、代表理事、業務執行理事、事務局長の意見交換が随時行われていることを報告した。</p> <p>iii) 令和5年度後半～令和6年度の行事日程 専務理事から、令和5年度後半～令和6年度の行事日程について報告がなされた。</p> |
| 令 5. 11. 30 | 顕彰 (第71回電気科学技術奨励賞贈呈式) | 学士会館 | <p>第71回電気科学技術奨励賞贈呈式及び祝賀会を開催。</p> <p>式典：16:00～17:35 祝賀パーティー：17:50～19:15 場所：学士会館（東京都千代田区神田錦町3-28）</p> <p>式典の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 会長式辞 (2) 電気科学技術奨励賞委員会審査報告 (3) 電気科学技術奨励賞贈呈 (4) 文部科学大臣賞贈呈 (5) 電気科学技術奨励会会長賞贈呈 (6) 祝辞 (7) 受賞者総代答辞 (8) 文部科学大臣賞・内容紹介 <p>贈呈式は、16:00より開始され、当法人の日高邦彦会長が式辞を述べ、さらに審査委員会委員長として審査結果の報告を行った。引き続き、受賞者全</p> |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘 要 |
|------------|--------------|------|--|
| | | | <p>員に電気科学技術奨励賞の賞状と副賞（雷神像の記念楯、賞金）の贈呈があり、さらに、文部科学大臣賞の贈呈、電気科学技術奨励会会長賞の贈呈と進んだ。</p> <p>各賞の贈呈の後、来賓の祝辞（文部科学省研究振興局長、総務省国際戦略局長、国土交通省大臣官房技術総括審議官、経済産業省資源エネルギー庁長官）が披露された。</p> <p>その後、全受賞者を代表して、文部科学大臣賞受賞の富士通株式会社の小牧浩輔氏が答辞を読み上げた。続いて、小牧氏により、大臣賞受賞作の内容が解説された。</p> <p>文部科学大臣賞受賞作の解説をもって、贈呈式は滞りなく終了した。</p> <p>贈呈式終了後、17:50 より、祝賀パーティーが、受賞者（同伴者を含む）と来賓を交え、4年ぶりに開催された。横山明彦理事長の開会の挨拶と乾杯の音頭でスタートし、参加者は、それぞれ思い思いに歓談し、同伴者ともども受賞を喜び合った。19:00 過ぎ、坪井裕副会長により中締めが執り行われ、盛会のうちに終了した。</p> <p>本贈呈式の出席者は、受賞者（及びそのご家族）・来賓を含め、118名であった。</p> |
| 令 6. 2. 27 | 分類部会 (臨時) | 学士会館 | <p>電気科学技術奨励賞（臨時）分類部会を開催。</p> <p>出席者：分類部会委員 3 名（上間功也氏、栗田智久氏、平栗健二氏）が出席。委員 1 名（松木隆典氏）が欠席。</p> <p>他に、代表理事（会長）・日高邦彦氏、代表理事（理事長）・横山明彦氏がオブザーバーとして出席。</p> <p>議事：推薦（応募）様式改善について（教育分野を中心に）</p> <p>昨年（令和 5 年）の第 71 回電気科学技術奨励賞の第 2 回審査委員会（令和 5 年 9 月 8 日開催）において、議事終了後、審査委員間で意見交換が行われ、特に、教育分野の応募数が減少傾向にあることが話題となり、応募数の拡大策について意見が出された。</p> <p>審査委員より出された意見は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 応募書類の「希望分野選択の手引き」に教育分野の対象となるテーマを具体的に書くこと ② 教育分野の応募書類の記述欄が不足していること <p>これらの意見を反映するためには、推薦（応募）様式の修正が必要である。そこで、本分類部会で、次年度（令和 6 年度）電気科学技術奨励賞の推薦（応募）様式の修正について検討するようになった。</p> <p>本部類部会では、上間功也氏が座長席につき、電気科学技術奨励賞の推薦（応募）様式改善について検討を行った。</p> <p>議論の結果、以下の事項が決定された。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 「希望分野選択の手引き」について <p>従来、希望分野選択の手引きでは、技術分野（分野 A～D）については小分類まで定義されているが、教育分野（分野 E）については大分類までしか定義されていなかった。そこで、教育分野についても小分類まで定義して情報を増し、応募しやすくする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (2) 教育分野の「推薦内容記述欄」について <p>従来、推薦（応募）書類の様式（用紙）では、表紙を除いた記述欄が、技術分野が 2 頁分（「その 1」、「その 2」）あるのに対し、教育分野は 1 頁</p> |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘 要 |
|-----------|--------------|------|--|
| | | | <p>分（「その1」）しかなかった。そこで、教育分野の記述欄を増やし、2頁分（「その1」、「その2」）とし、応募内容を十分アピールできるようにする。</p> <p>(3) 推薦内容記述欄の「その3」について 上記審査委員会の意見交換で、推薦（応募）書類に、応募様式（用紙）に、図を含めたヴィジュアルなイメージを用いて1枚で説明する欄（項目）があれば、審査の助けになるとのコメントが出された。そこで、技術分野、教育分野とも、推薦内容記述欄に「その3」を加え、図を含めたヴィジュアルなイメージを用いて1枚で説明する欄（項目）を設ける。</p> <p>次年度（令和6年度）電気科学技術奨励賞の推薦（募集）から、上記の3つの項目について改善した推薦（応募）様式を用いることになった。</p> |
| 令 6. 3. 4 | 理事会 (第3回) | 学士会館 | <p>令和5年度第3回理事会を開催。</p> <p>出席者：理事総数14名中、出席理事11名（日高邦彦氏、坪井 裕氏、横山明彦氏、衣川裕司氏、齋藤祐樹氏、寒川哲臣氏、富岡義博氏、平栗健二氏、丸山 茂氏、村上和夫氏、松井利行氏） 欠席理事3名（高本 学氏、平井淳生氏、古澤 宏氏） 出席監事2名（仲田一元氏、八島恵子氏）</p> <p>理事会議長として、横山理事長が議長席につき、本理事会の議決は定足数（理事の過半数）を満たしていることを確認した。議事に先立ち、令和5年度第2回（臨時）理事会（令和5年9月28日開催）の議事録を確認した。</p> <p>[議事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議事項1 令和6年度事業計画書（案）の件 専務理事から、令和6年度（令和6年4月1日～令和7年3月31日）の事業計画として、主な事業（1. 第72回電気科学技術奨励賞の贈呈、2. 第62回電気科学技術講演会の開催、3. 媒体の特長を活かした情報発信、4. 賛助会員・寄附者の維持・拡大による財源の安定確保）について各項目別に説明し審議に入る。 慎重審議の結果、全員異議なく承認した。 ・審議事項2 令和6年度収支予算書（案）の件 専務理事から、事業計画に基づく令和6年度収支予算書（案）について、経常収益、経常費用等を勘定科目ごとに詳細に説明する。厳しい経済情勢の中、賛助金・寄附金を主な財源とする当法人が経常収益を維持するのは容易ではないが、賛助会員・寄附者の維持・拡大による財源の安定確保に努めることで、令和5年度と同様、総額1,600万円規模の予算を組んだことを説明する。仲田監事から、同収支予算書（案）の所感を賜った後、審議に入る。 慎重審議の結果、予算書（案）の誤植（数字の記入漏れ）を修正することを条件に、原案が承認された。 ・審議事項3 第72回電気科学技術奨励賞推薦候補募集の件 専務理事から、同審議事項の概要を説明する。推薦候補募集の書類を全国の電力会社、電機関連会社、各種団体、研究施設、大学・工業高専等へ送付して周知を図るほか、Webサイトを通じての告知、応募の促進に有効と思われる対象者に向けた電子メール等による情報発信を行うことを説明。また、ここ数年、教育分野の応募数が少なくなっており、その理由として、応募様式の情報量（分野の定義、記述できる内容）が、技術分野の応募様式に比べて少ないことが審査委員会で指摘されている。そこで、第72回電気科 |

| 年月日 | 事業名 | 開催場所 | 摘 要 |
|-----|-----|------|---|
| | | | <p>学技術奨励賞の推薦募集では、特に、教育分野の応募様式を改善し（情報量を増やし）、教育に携わる方々が、より応募しやすい内容にする旨を説明した。さらに、審査委員会の構成および奨励賞関連の行事日程を説明し審議に入る。</p> <p>慎重審議の結果、推薦のお願い文書に、教育分野の応募様式を改善した旨を記載することを条件に、原案が承認された。</p> <p>・審議事項 4 第 62 回電気科学技術講演会の開催の件</p> <p>専務理事から、第 62 回電気科学技術講演会を、以下の内容で実施することが提案された。</p> <p>[提案内容]</p> <p>○令和 3 年度～令和 5 年度（第 59 回～第 61 回）の電気科学技術講演会に引き続き、東京大学工学系研究科電気系工学専攻 先端電力エネルギー・環境技術教育研究アライアンス（APET）との共催で実施する。</p> <p>○夏期（7 月後半～8 月）の開催で検討する。</p> <p>○オンライン形式での開催を基本とし、社会状況及び当法人のリソースを加味して検討する。</p> <p>○以下のテーマで検討する。</p> <p>「ワイヤレス電力伝送技術の開発動向」</p> <p>「電力伝送のワイヤレス化に向けた取り組み」等</p> <p>○講師（講演者）は、最大 3 名で検討する（官庁・メーカー・各種法人等、組織のバランスに配慮する）。</p> <p>○講演時間は、最大 150 分（2 時間半）とする。</p> <p>○奨励会の予算から、1 人当たり 20,000～30,000 円の謝礼を支払う。</p> <p>慎重審議の結果、原案が承認された。</p> <p>[業務報告]</p> <p>i) 役員等の改選スケジュールについて</p> <p>専務理事から、今年度（令和 5 年度）で当法人の役員等のほとんどが任期満了となるため、改選（選任）の手続きが必要になる旨を報告し、次年度（令和 6 年度）の役員等の改選スケジュールおよび必要な手続きが説明された。</p> <p>役員等の改選（選任）については、5 月 30 日（木）開催予定の理事会で、理事長が役員等候補者のリストを報告し、6 月 20 日（木）の評議員会で選任するので、任期満了となる役員等は、選任のために必要な書類を期日までに理事長に提出することが確認された。</p> <p>ii) 代表理事・業務執行理事の職務の執行状況の報告</p> <p>専務理事から、定款第 27 条、及び法人法 90 条、197 条により、職務の執行状況の報告が義務付けられていることに鑑み、令和 5 年 9 月～令和 6 年 2 月の執行状況について報告。併せて、代表理事、業務執行理事、事務局長の意見交換が随時行われていることを報告した。</p> |

以 上